

神戸大学外科専門研修プログラム

1 目的と使命

神戸大学外科専門研修プログラムは、外科領域診療に関わる最新の知識・技術を習得し、実践できる能力を養いつつ、外科領域の学問的発展に貢献することのできる外科専門医を育成することを目的とする。

外科専門医の育成を通じて、地域医療の拡充と外科領域分野の発展に寄与し、国民の健康、福祉を増進させることが本プログラムの使命である。

2 専門研修の目標

専攻医は本外科研修プログラムによる専門研修により、以下の 4 つの資質を備えた外科専門医になることを目指す。

1. 外科専門知識
2. 外科専門技能：診察・検査・診断・処置・手術
3. 継続的な科学的探求心
4. 医師としての倫理観とプロフェッショナリズム

3 神戸大学外科専門研修プログラムの特色

神戸大学外科学講座の食道胃腸外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科の 6 分野が連携し、プログラムの作成と運営を行うことにより、各専攻医のライフプランに応じた効率的できめ細やかな研修を計画することができる。

●サブスペシャリティ専門医への連動

整備基準に記される各領域の必須経験症例数は、研修期間中に十分な余裕を持って取得できる。外科専門医研修から切れ目なく各サブスペシャリティ専門医研修へと連動させることで、効率的に経験症例を蓄積することが可能で

ある。またサブスペシャリティが未決定の専攻医についても、各領域一線の診療環境で研修を行うことで、研修を通じて自身の目標を明確化していくことができる。(別添資料1参照)

●学術活動

学会発表や論文作成は、整備基準に記される必須業績を単純に蓄積するにとどまらず、サブスペシャリティ専門医取得へ効率的に連動できるように、研修管理委員会で管理する。各サブスペシャリティ領域の指導医が個々の専攻医の将来へ直結する業績を無駄無く蓄積できるように指導を行う。

●研修施設群

施設群には大学病院、センター病院、専門病院、都市部病院、地方病院など様々な規模、地域の病院を有しており、外科専門医取得のために効率的な研修が行えるとともに、各専攻医の目標や興味に応じた研修プランの構築が可能である。(別添資料2、3参照)

●専門研修指導医

本プログラムの専門研修指導医は、随時指導者講習への参加などにて指導スキルの向上を図っている。外科学会、各領域サブスペシャリティ学会の専門医、指導医、評議員などを多数名有しており、専攻医ごとに最適なロールモデルに身近に接し、一線の指導を受けることができる。

●研究、学位取得

研究、学位取得、あるいは将来の留学を希望する専攻医は、研修中に大学病院の各分野の持つ臨床研究テーマに取り組む、研究期間を設けて各分野研究室で研究を行う、などが可能である。大学院進学や研究期間を設ける場合においても外科専門医取得の遅滞が生じないように、経験数や業績の蓄積を行えるように研修プランを構築する。

●研修環境

基幹施設である神戸大学附属病院には、外科スキル自主研修用のドライラボが設置されており、自由に利用可能である。学内 LAN より、主要邦文、

英文雑誌はオンラインで自由に入手可能である。外科関連成書、ビデオライブラリーは各分野医局で保有しており、専攻医は自由に閲覧可能である。

4 神戸大学外科専門研修プログラム施設群

- 神戸大学医学部附属病院を基幹施設とし、連携施設（49施設）と併せて専門研修施設群を構成する。
- 200名の専門研修指導医が専攻医の指導にあたる。
- 施設名、所在地、サブスペシャリティ研修可能分野、施設群に関する詳細は別添資料2、3を参照のこと。

●施設群概要

● 基幹施設	神戸大学医学部附属病院
● 専門研修指導医	約 200 名
● 連携施設	49 施設
● 年間 NCD 登録症例	約 24000 例
● 専攻医受け入れ数	約 40 名/年

●各サブスペシャリティ領域研修体制（2016年1月調査）

	手術経験可能施設	サブスペシャリティ専門医 修練施設
消化器外科	44	43
心臓血管外科	33	19
呼吸器外科	22	17
小児外科	18	7
乳腺外科	36	23

●専門研修指導医のサブスペシャリティ資格（2016年1月調査）

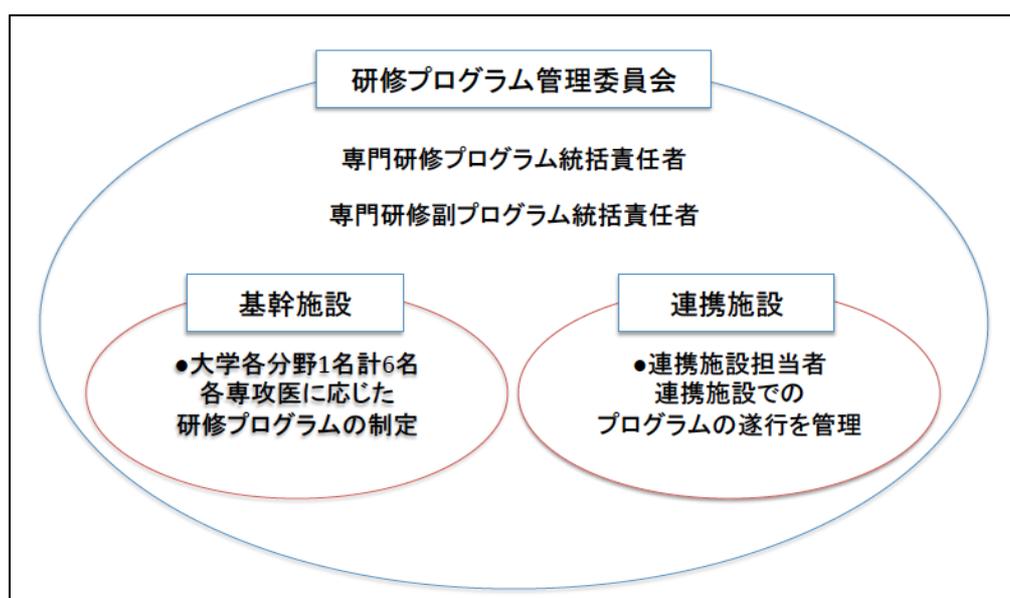
	専門医	指導医
日本消化器外科学会	132	91
日本心臓血管外科学会	79	40
日本呼吸器外科学会	28	11
日本小児外科学会	13	8
日本乳癌学会	22	7

5 神戸大学外科専門研修プログラム管理委員会

専門研修プログラム管理委員会は、プログラム統括責任者、副プログラム統括責任者を中心に、基幹施設である神戸大学医学部附属病院外科学講座の6分野からの担当者、および連携施設担当者により組織される。

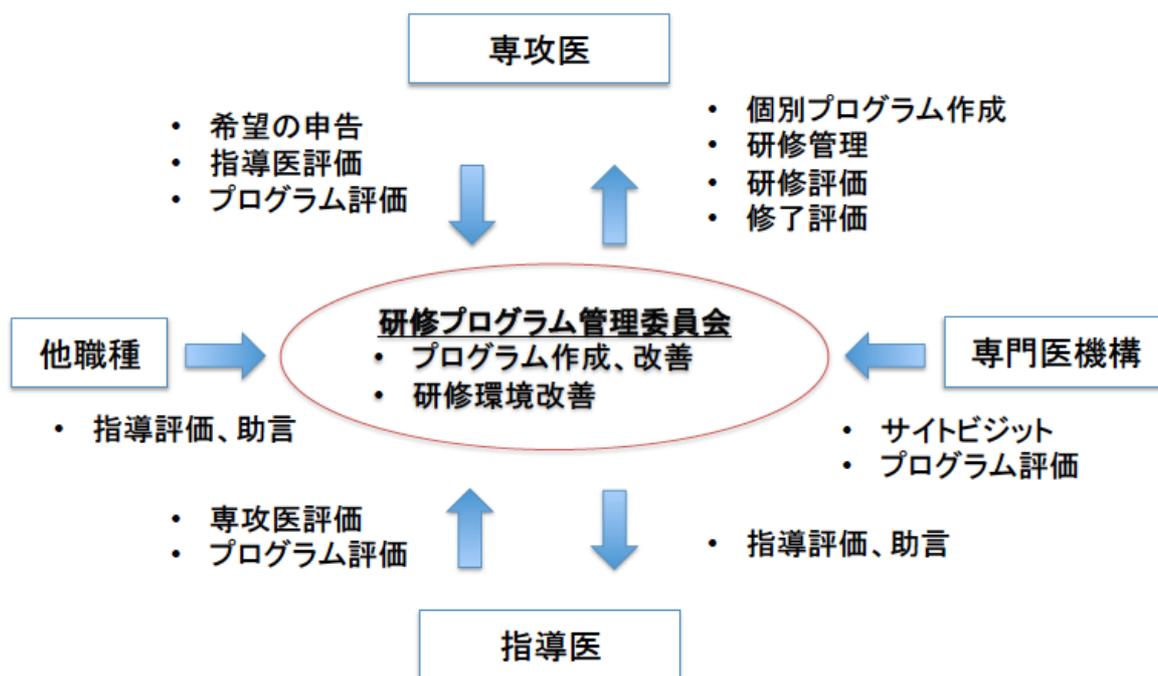
専門研修プログラム統括責任者

掛地吉弘（神戸大学外科学講座食道胃腸外科学分野 教授）



●役割

研修プログラム管理委員会は、専攻医、指導医、他職種等と連携し、専門研修プログラムの作成、管理、改善を行うとともに、研修全般の管理、研修修了判定を行う。



6 専攻医の採用と研修開始

●年度募集専攻医数

40名

●応募資格

- 医師法に定められた日本の医師免許を有する。
- 初期臨床研修修了登録証を有する。ただし、平成16年3月以前に卒業の医師は免除とする。

● 専攻医募集スケジュール

前年

7月	説明会開催
9月	募集開始
11月	プログラム統括責任者宛への申請書類提出締め切り 書類選考、面接 選考結果を応募者へ通知

当年

2月	研修病院決定
3月	専門研修オリエンテーション
4月	専門研修開始
5月 31日	までに日本外科学会事務局へ研修開始届けの提出

● 提出書類

申請書

履歴書

医師免許証コピー

臨床研修修了登録証（コピー）あるいは修了見込証明書

健康診断書

神戸大学外科専門研修プログラムへの応募者は、所定の形式の書類を専門研修プログラム統括責任者宛へ提出のこと。申請に関する詳細および申請書のダウンロードは神戸大学外科学講座ホームページへ。

(<http://www.med.kobe-u.ac.jp/sdomon/index.html>)

各分野のホームページへのリンクより、教室紹介およびサブスペシャリティ専門医取得へ向けた詳細などを掲載している。

7 外科専門研修計画

研修プログラム管理委員会が専攻医個別にヒアリングを行い、各専攻医のライフプランに併せた研修プログラムを作成する。

一年ごとに定期的な再検討の機会を設けるとともに、研修中にも随時希望を

研修プログラム管理委員会へ申告することができる。

- 研修期間は 初期臨床研修修了後、3 年間である。
- 3 年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低 6 ヶ月以上の研修を行う。基幹施設あるいは連携施設のみでの 3 年間の研修は行われない。
- 専門研修 3 年間で、整備基準に記された専門医取得に必要な経験、業績を取得する。
- 初期臨床研修期間中に外科専門医基幹施設ないし連携施設で経験した手術症例(NCD に登録されていることが必須)は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限り、手術症例数に加算することができる。
- 専門研修期間中に神戸大学大学院へ進学することも可能である。臨床に従事しながら研究を進める期間は専門研修期間として扱う。この場合も 3 年間での外科専門医を取得する。

●専門研修中の年度毎の修練プロセス

専門研修 1 年目

- 外科診療に必要な解剖学、侵襲学、病理学等の基礎的知識、病態理解を習得する。
- 外科診療に必要な基本的検査、処置、手術、麻酔、周術期管理を習得する。
- 外科診療に関連する文献を検索し、批判的に考察する技能を習得する。
- 経験症例 150 例以上、術者経験 30 例以上

専門研修 2 年目

- 外科専門知識、専門技能を習得する。
- 低難度から中難度手術については術者としての基本的スキルを習得する。
- 経験した症例のプレゼンテーション、学会発表、論文執筆等の技能を習得する。
- 経験症例 350 例/2 年間以上、術者経験 120 例/2 年間以上

専門研修 3 年目

- 外科関連領域を含めた外科領域全般についての専門知識、専門技能を

習得する。サブスペシャリティ領域における高度専門知識の取得を開始する。

- 外科領域における未解決の問題点、議論点に自ら着目し、解決へ向ける基本的な探求姿勢を習得する。
- 倫理観に根ざした患者中心の安全な医療を実践し、研修医や学生のロールモデルとなる。
- 経験症例 500 例/3 年間以上、術者経験 200 例/3 年間以上

● 年次修練スケジュール

神戸大学外科専門研修プログラムでの 1 例を下に示す。この例では、専門研修 1・2 年次は連携施設、専門研修 3 年次は基幹施設での研修となる。

	専門研修 1 年次	専門研修 2 年次	専門研修 3 年次
研修施設	連携施設 (都市部センター病院)	連携施設 (地方中核病院)	基幹施設 (神戸大学病院)
手術経験	周術期管理、外科処置修得 低・中・高難度手術助手、術者経験 適切に段階を踏みつつ、年次に関わらず幅広く手術経験を積めるように 研修を計画する		
学術活動	国内・海外学会発表 論文作成 (邦文・英文)		
	標準コース		外科専門医取得
	サブスペシャリティ専門コース		サブスペシャリティ修練
	研究コース		大学院入学 研究・留学

- 専門研修 2 年次終了までに、必須手術症例経験数、術者経験数、学術業績の蓄積を達成する。
- 専門研修 3 年間のうち、6 か月~2 年を基幹施設（神戸大学病院）にて研修する。
- 基幹施設研修時期は、大学院進学希望、サブスペシャリティ専門修練計画などにより柔軟に対応する。
- 研究コースでは 3 年目に大学院に進学し、臨床研究または学術研究・基礎研究を開始する。ただし、研究専任となる基礎研究は 6 か月以内とする。
- 大学院進学や研究期間を設ける場合においても、外科専門医取得の遅滞が生じないように研修プログラムを構築する。

●週間スケジュール

（基幹病院における 1 例）

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
	8:00~8:20	8:20~9:00		8:00~8:20	8:00~8:20
	術後 カンファレンス	合同術前 カンファレンス		術後 カンファレンス	術前 カンファレンス
午前	8:20~9:00			8:20~9:00	8:20~9:00
	総回診			抄読会	総回診
					10:00~11:00
					BSL ミニレクチャー
	病棟回診、処置 手術	病棟回診、処置 手術	病棟回診、処置 外来処置	病棟回診、処置 手術	病棟回診、処置 手術
午後	17:00~19:00	19:00~20:00	19:00~20:00		
	症例 カンファレンス	消化管集学的治療 カンファレンス	(月一回)病理 カンファレンス		
カンファレンス準備、学会発表準備、論文作成 手術ビデオカンファレンス、ドライラボトレーニング等					

● 専攻医の到達目標

➤ 到達目標 1(専門知識):

外科診療に必要な下記の基礎的知識・病態を習熟し、臨床応用ができる。

解剖学、病理学、腫瘍学、病態生理学、輸液・輸血学、血液凝固・線溶学
栄養・代謝学、感染症学、免疫学、麻酔科学、集中治療学、救急医療学

➤ 到達目標 2(専門技能):

外科診療に必要な下記の検査・処置・麻酔手技に習熟し、臨床応用ができる。

検査の施行と結果の評価、周術期管理、麻酔手技の実施、外科処置の施行、
外科関連専門分野の初期治療と転送の判断

➤ 到達目標 3(学問的姿勢):

外科学の進歩に併せた生涯学習の基本を修得し、実行できる。

カンファレンスや学術集会への出席と発表、外科学会への1回以上の出席は
必須、臨床で直面する問題解決のための資料収集、論文作成

➤ 到達目標 4(倫理性、社会性など):

外科診療を行う上で、医の倫理や医療安全に基づいたプロフェッショナルとして
適切な態度と習慣を身につける。

医療行為に関する法律の理解と遵守、患者や家族との信頼関係構築、
インフォームドコンセントの実践、チーム医療の実践、ターミナルケアの
実践、外科診療の指導、書類の作成・管理など

具体的な項目の詳細は、専攻医研修マニュアル(資料4)にある、到達目標1~4、
を参照のこと。

● 専攻医の経験目標

➤ 経験目標 1:外科診療に必要な疾患を経験または理解する。

➤ 経験目標 2: (手術、処置) 一定レベルの手術を適切に実施できる能力を修
得し、その臨床応用ができる。

- ・350 例以上の手術手技を経験（NCD に登録されていることが必須）
- ・術者として 120 例以上の経験（NCD に登録されていることが必須）

➤ **経験目標 3:** 地域医療への外科診療の役割を習熟し、実行できる。

具体的な項目の詳細は、専攻医研修マニュアル（資料 4）にある、経験目標 1~3 を参照のこと。

● 臨床現場を離れた学習、自己学習について

自ら臨床上の問題点を明確とし、それに対する解決策を最新の知見をもとに考えていくこと、また自身に求められる知識や技量を把握し、その習得へ向けて研鑽すること、これらのために臨床現場を離れた学習、自己学習は不可欠な機会と位置づけている。

最新の知識やスキル獲得のため、学会や研究会、セミナーへの積極的な参加を勧める。主要な学会、研究会等のスケジュールは研修管理委員会よりアナウンスする。神戸大学外科学講座では、ハンズオンセミナー（年 2 回ドライラボとウェットラボ）を主催、また各分野も積極的に研究会を主催しており、これらへ専攻医も参加する。各分野医局に常設のウェットラボやビデオライブラリー、書籍などは自由に閲覧、使用が可能である。基幹施設で随時開催の医療安全講習、感染対策講習、医療倫理講習の受講は必須とする。

これらを十分に活用し、自律的に成長してゆける能力を身につけた専門医となることを目指す。

● 地域医療について

神戸大学専門研修プログラムの施設群は、僻地を含めた地方中核病院を多数有する。地域での研修では、専攻医は研修中であると同時に、地域医療を担う戦力として一線で能動的に活躍することが求められ、これは医師としての責任感や倫理観を涵養する重要な機会となる。また地方に特有の医療事情や疾患傾向を学び、地域の医療資源や救急体制を理解し、地域の特性に応じた病診連携や在宅医療を実践していく。

本プログラムでの外科専門医育成に欠かせない研修と位置づけており、地域医療経験の機会を十分に生かすとともに、安全で有益な研修となるように、

充分な指導体制を整備している。

8 専門研修の評価と修了

- 専攻医と指導医による相互評価を基本とする。
- 専攻医は自身の経験症例を把握し、研修達成度の自己評価を行う。
- 指導医は日々の診療の中で専攻医を指導し、達成度を評価する。
- 医師としての態度、責任感、倫理観、社会性といったコアコンピテンシーの評価には、自己評価、指導医評価に加え、看護師長などの多職種による評価を含める。
- 年度の末に専攻医評価表/実績記録（資料 5）へ専攻医による自己評価、および指導者評価を記載し、3 月に専門研修プログラム管理委員会に提出する。
- 研修プログラム管理委員会は 5 年間、これらの記録を保管する。

●研修の修了

3 月末の研修管理委員会にて、研修開始後 3 年を経た専攻医について修了の可否を評価し、修了者へは専門研修プログラム統括責任者が外科専門研修修了証を交付する。

●修了要件

年次毎の評価表および実地経験目録、学術活動報告に基づき専攻医研修マニュアル（資料 4）に記載の必須症例経験、業績を取得していること。

神戸大学外科専門研修修了判定試験（研修 3 年目 2 月実施）に合格し、外科専門医としてふさわしい知識、技能、態度を習得していること。

●専門研修の休止・中断、プログラムの移動、未修了

専門研修の休止、中断、プログラムの移動を希望する専攻医は、研修プログラム管理委員会へ申し出ること。

研修プログラム管理委員会は、専攻医研修マニュアル（資料 4）にある、“専門研修の休止・中断、プログラム移動、未修了”の項に準拠して対応する。

9 専攻医の就業環境

専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は、専攻医の労働環境改善に努める。

専門研修プログラム統括責任者および専門研修指導医は、専攻医のメンタルヘル스에配慮する。

専攻医の勤務時間、当直勤務、給与、休暇は、労働基準法に準じて各専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規程に従う。

10 専門研修プログラムの評価と改善

神戸大学外科専門研修プログラムは、専攻医からのフィードバックを重視して研修プログラムの評価と改善を行う。

- 専攻医は年次ごとに、指導医、指導施設、専門研修プログラムに対する評価を行う。
- 指導医は指導施設、専門研修プログラムに対する評価を行う。
- 専攻医および指導医、また他職種よりの評価は研修プログラム管理委員会へ提出され、研修プログラム管理委員会は研修プログラムの改善を行う。
- 必要に応じ、研修プログラム管理委員会は専門研修指導医よりの聞き取りおよび指導、指導施設の実地調査および指導を行う。
- プログラムの修正、改善を行った場合、いかなる評価に基づいてどういった修正、改善を行ったかを記録し、日本専門医機構の外科専門研修委員会に報告する。
- 研修プログラム管理委員会は、プログラムの評価、修正、改善を記録し保管する。

● 研修に対する監査(サイトビジット等)、調査への対応

- 外部機関によるサイトビジットは、積極的に受け入れる。監査、評価に基づいて、研修プログラム管理委員会はプログラムの修正、改善を行う。
- いかなる評価にもとづいてどのような修正、改善を行ったかを記録し、

日本専門医機構の外科専門研修委員会に報告する。

別添資料

- 1) 各領域研修体制
- 2) 施設群 MAP
- 3) 施設群詳細
- 4) 専攻医研修マニュアル
- 5) 専攻医評価表／実績記録

本プログラムに関する問い合わせ先：

食道胃腸外科医局

電話：078-382-5925

E-mail: ichige@med.kobe-u.ac.jp

領域別研修体制

食道胃腸外科学分野

肝胆膵外科学分野

●特色

消化器外科領域では、基幹施設である神戸大学医学部附属病院の食道胃腸外科学分野と肝胆膵外科学分野が連携して指導にあたります。

外科専門研修プログラムでの研修開始時より、消化器外科学会専門医取得に必要な症例数、業績を効率的に蓄積することができ、最短期間での消化器外科専門医取得が可能です。

施設群全体で人材、設備、症例とも豊富な研修環境であり、低～中難度手術の術者経験を豊富に蓄積できる施設、高難度手術や先進医療の経験できる施設、研究機関を有する施設など、それぞれの特徴を生かして、各専攻医のライフプランに沿ったプログラムを構築します。

● 消化器外科学会専門医修練可能施設

施設数：45 施設

大学病院、ハイボリュームセンター病院、都市部病院、地方中核病院、専門病院（がんセンター）等、多彩な施設を有しています。

●高度専門分野資格保有者数（プログラム全体：2016年1月調査）

日本肝胆膵外科学会高度技能指導医	13
日本肝臓学会専門医	15
日本胆道学会指導医	5
日本食道学会食道外科専門医	4
日本大腸肛門病学会専門医	9
日本内視鏡外科学会技術認定医	30

食道胃腸外科学分野

連絡先：山本 将士（やまもと まさし）

電話：078-382-5925（食道胃腸外科医局）

E-mail: m0125@med.kobe-u.ac.jp

ホームページ：http://www.med.kobe-u.ac.jp/surg1/

肝胆膵外科学分野

連絡先：田中 基文（たなか もとふみ）

電話：078-382-6302（肝胆膵外科医局）

E-mail: mtanaka1 @med.kobe-u.ac.jp

ホームページ：http://www.med.kobe-u.ac.jp/hbps/index.html

心臓血管外科学分野

● 特色

心臓血管外科学分野の研修では、心臓大血管外科、血管内治療、小児心臓血管外科を目指す医師を対象としベッドサイドでの診療能力の養成は基より、広い知識の習得や臨床研究を始めとするリサーチマインドの養成を通じ質の高い臨床能力と教育能力を身に着けた心臓血管外科医を育成することを目的としています。

心臓血管外科専門医制度は外科専門医制度を基盤としたサブスペシャリティ一領域です。心臓血管外科専門医取得のためには、外科専門医取得に加え認定修練施設で3年以上の研修、50例以上の術者経験を含む一定以上の手術経験、論文や学会発表の一定の業績などが求められます。これらを効率的に習得するため神戸大学では現在20施設の心臓血管外科連携施設との研修プログラムを組んでいます。

具体的には2年間の初期臨床研修の後、続く3年間（卒後3年目～5年目）は一般外科および心臓血管外科研修とし外科専門医取得のための研修を優先します。この3年間では1年以上の一般外科研修（外科連携施設または神戸大学

病院)と1年以上の神戸大学病院での研修が必須となりますが、心臓血管外科の基本的技術も十分に学ぶことができます。外科専門医取得の後は心臓血管外科専門医取得のための研修となります。心臓血管外科連携施設あるいは神戸大学心臓血管外科にて卒後6年目から最低2年間の研修を行い、最短で卒後7年目終了時点での心臓血管外科専門医取得を目指します。心臓血管外科専門医取得までの卒後3年目から7年目までは先天性心疾患・成人心臓・大血管・腹部末梢血管すべての研修を必須とします。また大学院入学と学位取得は卒後3年目以降どの時点でも可能です。

心臓血管外科学分野

連絡先：井上 武 (いのうえ たけし)

電話：078-382-5942 (心臓血管外科医局)

E-mail: takebon@juno.dti.ne.jp

ホームページ：<http://www.med.kobe-u.ac.jp/geka2/index.html>

呼吸器外科学分野

●特色

神戸大学呼吸器外科学分野では、現在のところ兵庫県、大阪府の12施設で呼吸器外科専門医に向けた修練を行っております。大学病院をはじめ、がん専門病院（兵庫県立がんセンター）、総合病院（住友病院、済生会中津病院、高槻病院、神戸日赤病院、兵庫県立淡路医療センター、明石医療センター、北播磨医療センター、兵庫中央病院、加古川西市民病院、高砂病院）とそれぞれの施設が様々な特色を持っており、地域の呼吸器外科の中核を担っております。すべての施設での呼吸器外科における年間症例数は1700件で肺癌、縦隔腫瘍、気胸、膿胸をはじめ様々な疾患に対する手術経験ができます。また、胸腔鏡手術、開胸手術に対していずれも熟練した指導医が多数在籍し、若手医師の育成に力を入れています。

現在、呼吸器外科専門医は全国的に少ないため、我々は、できる限り早期に呼吸器外科専門医を育成することに力を注いでおります。また、外科専門医取得後の呼吸器外科専門医取得に向けた修練症例数および環境も充実しておりますので、呼吸器外科専門医を目指す若い先生方には是非とも我々と一緒に進んでいってほしいです。

また、幅広い視野を持った外科医の育成に向け臨床だけでなく研究も重視しております。学位取得や留学についても希望者には積極的に応援しており、専門医修練を考慮しながら双方に支障のないように調整しております。専門医取得だけでなく将来のことも見据えたプログラムを構成しております。

呼吸器外科学分野

連絡先：田中 雄悟（たなか ゆうご）

電話：078-382-5750（呼吸器外科医局）

E-mail: kgts@med.kobe-u.ac.jp

ホームページ：<http://www.med.kobe-u.ac.jp/gts/index.html>

小児外科学分野

●特色

神戸大学外科学講座小児外科学分野は、日本小児外科学会認定施設 5 施設を関連施設にもち、小児外科専門研修の環境が十分にそろっているのが特色です。

小児外科は成人外科領域と比較して症例数が少ない分野であり、やむを得ず成人外科に所属しながら小児の症例を時々経験するといった間延びした研修内容となっている地域がまだ多い分野であり、小児外科専門研修の質を高めることが学会レベルの課題となっています。そのような現状の中、神戸大学小児外科はその歴史を誇り、また外科学講座や小児科学講座との連携が良好な環境が整って、小児外科専従医として 24 時間 365 日小児外科診療に携わり、小児外科全般を網羅する診療内容でハイレベルの専門研修を積むことができることが魅力となっています。

●関連施設

神戸大学医学部附属病院 小児外科 (兵庫県神戸市)

手術症例数 180 例

特色：大学院生として臨床とのバランスをとりながら研究に従事することが可能。

大学内の他専門分野・他診療科との連携、より専門性の高い集学的治療が可能。

総合周産期母子医療センター

兵庫県立こども病院 小児外科 (兵庫県神戸市)

手術症例数 1100 例

特色：ハイボリュームセンター。日本の小児外科施設の中で一番手術症例数が多い。

小児専門病院であり、より専門性の高い研修が可能。

総合周産期母子医療センター

高槻病院 小児外科 (大阪府高槻市)

手術症例数 400 例

特色：地域中核病院、小児救急対応、PICU 完備

総合周産期母子医療センター

加古川中央市民病院 小児外科 (兵庫県加古川市)

手術症例数 300 例

特色：地域中核病院、小児救急対応

地域周産期母子医療センター

姫路赤十字病院 小児外科 (兵庫県姫路市)

手術症例数 200 例

特色：地域中核病院、小児救急対応

総合周産期母子医療センター

小児外科学分野

連絡先：尾藤 祐子（びとう ゆうこ） 特命准教授

電話：078-382-5942（医局）

e-mail: byuko1023@gmail.com

ホームページ：http://www.med.kobe-u.ac.jp/geka2/ped_sur/

乳腺内分泌外科学分野

●特色

神戸大学乳腺内分泌外科学分野では主に乳癌の診断、手術治療、薬物治療を行っており、乳腺専門医の習得に向けて若手医師の育成を行っています。現時点では、基幹病院である神戸大学病院、がん診療連携拠点病院である兵庫県立がんセンターをはじめとした合計14の施設で専門医取得に必要な修練を積むことが可能です。施設は大阪府の2施設（済生会中津病院、淀川キリスト教病院）以外はすべて兵庫県内にあります。各施設にはそれぞれに特徴があるため、外科専門医および乳腺専門医の研修期間に習得すべき内容はもちろん、各人の希望により学びたい内容なども考慮してよりよい研修を行えるように期間や配置について調整しています。

また、研究を行うことは、限られた期間であっても臨床において幅広い視野を持つことができるため、とても重要であると考えています。大学病院、がんセンターが中心となり、基礎研究、臨床研究を行っており、学位取得や留学を希望する場合にも、十分対応できるようになっています。

現在、日本では乳癌患者は増え続けており、乳腺専門医の数はまだまだ不足しています。そういった中で、乳癌診療においても広い視野を持ち、時代のニーズに合った質の高い医療を実践できる人材が求められていると思います。外科専門医制度研修プログラムの中で、乳腺疾患診療に関する基礎知識をはじめ幅広い外科的技量を習得し、さらに乳腺専門医に向けてのより高次元の研修に進んで行っていただきたい。是非我々と一緒に大切な時期を過ごし、共に成長して頂きたいと思います。

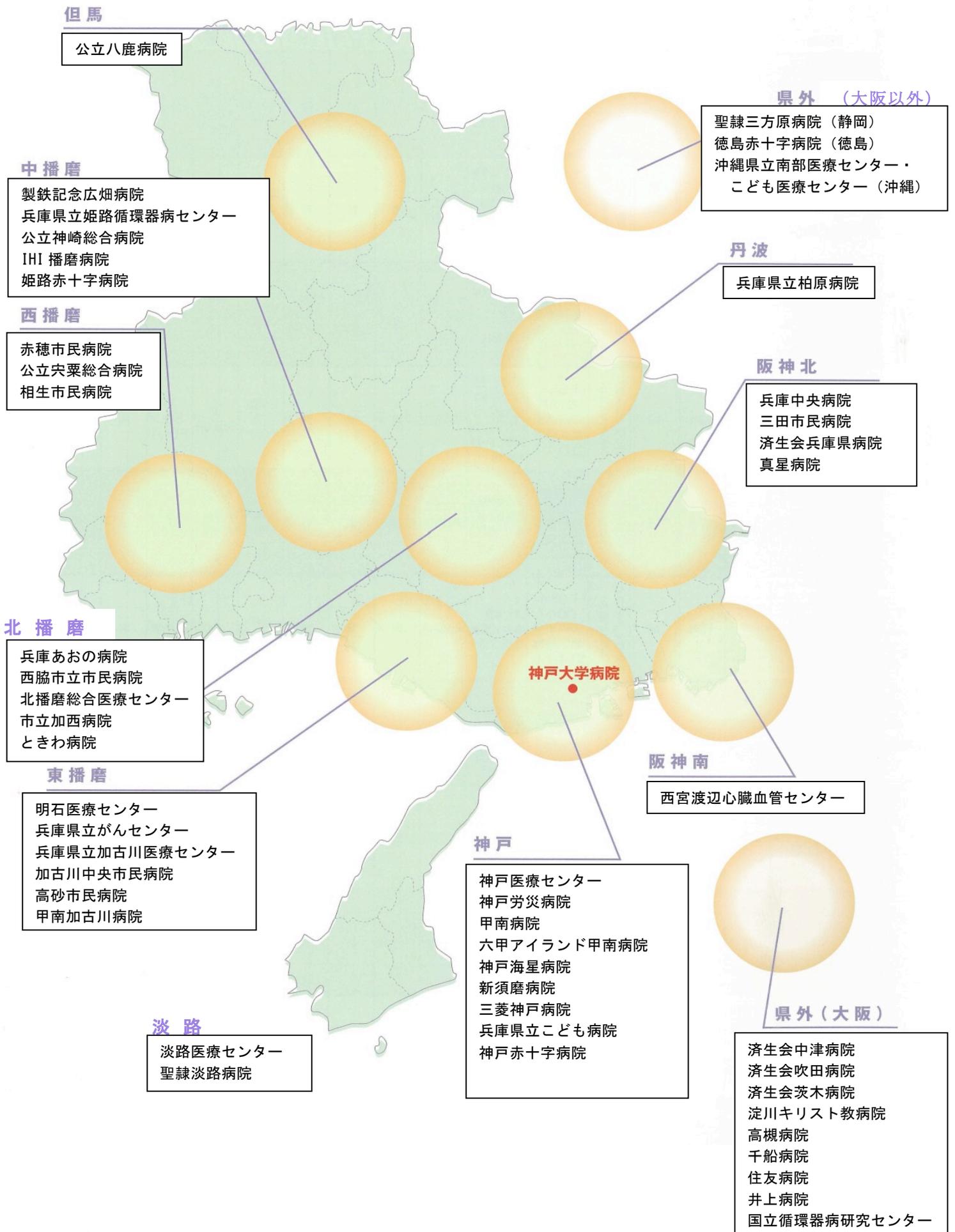
乳腺内分泌外科学分野

連絡先：河野 誠之（こうの せいし）

電話：078-382-6871（乳腺内分泌外科医局）

E-mail: seishik@med.kobe-u.ac.jp

神戸大学外科専門研修プログラム施設群



サブスペシャリティ学会専門医、指導医

資料3

病院名	消化器外科		心臓血管外科		呼吸器外科		小児外科		乳腺外科		サブスペシャリティ修練施設	神戸大プログラム配分 NCD症例
	専門医	指導医	専門医	指導医	専門医	指導医	専門医	指導医	専門医	指導医		
神戸大学病院医学部附属病院	11	9	9	1	3	1	1	1	2	1	消、心、呼、小、乳	2092
明石医療センター			2	1	1						消、心、呼、乳	500
神戸医療センター	3	2							1		消、乳	475
兵庫中央病院	2				1	1					消、呼	151
県立がんセンター	8	3			3	2			4	2	消、呼、乳	1213
県立姫路循環器病センター	1	1	7	5							消、心	660
県立柏原病院	3	3									消、乳	301
県立加古川医療センター	4	3	1	1					2	2	消、乳	1476
県立淡路医療センター	2	2	2	2	1	1					消、心、呼、乳	1314
加古川中央市民病院	5	4	3	2	1		3	2			消、心、呼、小	1241
市立三田市民病院	3	1									消、乳	648
市立加西病院	2	2									消	401
市立西脇病院	4	1									消	178
高砂市民病院	2	2	1		3						消、呼、乳	494
北播磨総合医療センター	5	2	3	2	1						消、心、呼、乳	1096
宍粟総合病院	2	2									消、乳	260
公立神崎総合病院	2	1									消	122
神戸労災病院	4	3	2	2							消、心、乳	829
大阪府済生会中津病院	4	3	3	2	2						消、心、呼、乳	1318
済生会兵庫東病院	5	5			1						消、呼、乳	378
済生会吹田病院	4	1			1						消、呼、乳	379
済生会茨木病院	1	1									消、乳	468
三菱神戸病院	3	2									消	207
淀川キリスト教病院	3	3	1			1	1	1	1		消、呼、小、乳	968
聖隷三方原病院	2	2	2	1	6	1			1		消、心、呼、乳	480
聖隷淡路病院	2										消	38
甲南病院		1							2	1	消、乳	386
六甲アイランド甲南病院	4	2									消	289
神戸海星病院	4	4							2		消、乳	212
製鉄記念広畑病院	4	3							1		消、乳	972
IHI播磨病院		1									消	83
高槻病院	1	1	2	1	1		2	1	1		消、心、呼、小	530
千船病院	1										消	155
新須磨病院	2		2	1							消	161
八鹿病院											消	242
赤穂市民病院	3	3	1	1					1		消、心	104
住友病院	7	6	2	1	1				2		呼、消、心	258
兵庫県立こども病院			6	3			6	3			小、心	950
神戸赤十字病院	3	2	2	1	1	1					心、呼、消	306
徳島赤十字病院	3	2	4	1	1	1					心、消、呼	321
西宮渡辺心臓血管センター	1		1	1							心	128
南部医療センター・こども医療センター	1	1	4	1	1	2					心、消、呼、小	150
兵庫県立西宮病院	5	3									乳、消	205
姫路赤十字病院	7	5					1		2	1	小、消	331
災害医療センター												80
明和病院	7	5			2	1			1		消、乳	238
ときわ病院	5	3									消	66
真星病院	1										消	428
井上病院	1	1	1	1							消、心	211
国立循環器病研究センター			18	9							心	50
施設合計	147	101	79	40	31	12	14	8	23	7		24543